

令和4年度

ブロック別研修会の取組 実践発表 ～土長南国北ブロック 本山町立本山保育所～

1 所の概要

○園児数、クラス数、職員構成

年齢	クラス名	男児	女児	合計	担任(支援)	その他
5歳児	き組	8	10	18	4(3)	所長 1
4歳児	あお組	6	9	15	2(1)	乳児支援保育士 1
3歳児	あか組	6	13	19	4(3)	家庭支援保育士 2
2歳児	もも組	11	8	19	4(1)	子育て支援センター 1
1歳児	はと組	6	3	9	3	調理員 3
0歳児	ひよこ組	2	3	5	2	

○めざす子ども像

- ・自分が大好きなこども
- ・自己表現できるこども
- ・自己選択できるこども

○保育目標

- ・互いを尊重し合い、安心して過ごせる保育所をめざす

2 研修目標

「 子ども理解を深め、一人一人が安心して自己表現・自己選択できる環境について 」

3 研修目標設定の理由

本園では、支援を要する園児や、発達的气になる園児を含め、すべての子どもが安心して園での生活が送れるように、本年度3年目となる県のエッセンス事業を受け、子ども理解を深め、一人一人に合ったサポートをすると共に支援方法のスキルアップを目指し取り組んでいる。

保護者との面談も担任を中心に家庭支援保育士同席のもとに積極的に行い、子どもの内面や保護者、子どもの困り感、課題や支援方法を出し合い、保護者と共有しながら園での生活や保育に活かしている。

また、遊びの環境や行事等を見直し、どの子どもも安心して自分らしくいられるように、自己表現や自己選択できる環境とはどうあるべきかを日々模索している。

これらの取り組みの中で、園児が自分の思いを表現できるようになり、自分で考え工夫して遊びを進め、楽しむ姿も見られるようになってきている。しかし、登園の際保護者と離れにくい姿があったり、まだまだ自己表現や、聞く力、自己選択に弱さを感じる姿もあるので、更に一人一人の発達の特性を理解し、どの子どもも安心して過ごし自ら意欲的に遊び込み、保育所を「楽しい!」と感じられるための環境構成や保育者の援助や遊びを考えていくことが課題だと考え、目標を設定した。

4 年間取組内容

- ◆ 4月・・・研修目標の決定と年間研修計画の作成
- ◆ 5月・・・親育ち支援研修
- ◆ 6月・・・2歳児研究保育と協議
5歳児研究保育と協議
- ◆ 10月・・・3歳児研究保育と協議
4歳児研究保育と協議
- ◆ 11月・・・2、5歳児公開保育と協議
- ◆ 1月・・・研修の振り返り(成果と課題)
- ◆ 2月・・・13ブロック交流会の報告
- ◆ 3月・・・総括と次年度に向けての計画・協議

5 成果

①子どもの姿の変容

- ・自分の思いや感じたことを言葉や態度で表現できるようになってきた。
- ・1日のスケジュールを視覚的にも提示することを続けていくことで、ことで、支援を必要とする子どもだけでなく、クラス全体が安心して生活することに繋がってきた。
- ・自分たちで考え試してみたり、友だちとやり取りを楽しみながら遊びに向かう姿が見られるようになった。
- ・子どもの力を信じ、見守り励ます中で、思った以上に自分たちでできることが増え、より挑戦しようとする姿が見られるようになった。
- ・教材研究を学び、素材の工夫等をしたことで、子どもたちからの新しい気付きや遊びの広がりが見えた。

写 真

5 成果

②研修体制に関わる内容

- ・コロナ禍も相まって、人員にゆとりがなく、園内研修に多くの職員が参加できる体制を作ることは難しかったが、園内研修に参加できなかった分を、職員会議やクラス会、支援会等で報告し、研修内容やそれぞれが学んだことを共有し、今後保育で大事にしていきたいことを全体で確認しながら保育にあたることに努めた。

写 真

5 成果

③保育者の意識や保育実践の変容

- ・発達理解を深めることで、子どもの思いに寄り添いながら、ゆったりとした丁寧な関わりが必要だと感じ、意識して関わるようになった。
- ・子どもの立場、視点に立ったものの見方、考え方が出来るようになり、そこから見える子どもの姿や変化に気付けるようになった。またそれを元に環境構成や、行事の取り組み方を考えるようになった。
- ・教材研究の大切さを改めて学ぶことができ、素材の工夫や年齢発達に応じたおもちゃや教材の選び方や、配置を考えながら保育するようになった。
- ・長時間保育やコロナ禍の保育ではあるが、少しの時間を活用し、子ども達の事やお互いのクラスの事、日々の悩みや嬉しかった事等を語り合う時間職員関係を作ろうと、一人一人がより努力するようになった。

写 真

5 成果

④公開保育を行って

- ・子どもの成長発達のためには、ねらいを明確にし、計画的に保育することの大切さを再認識できた。
- ・保育を参観した人にも保育内容が分かり、具体的で伝わりやすい簡潔な指導案作成の大切さに気付いた。
- ・子どもの育ち等、子どものことをクラス間や園内でより深く話すことが増え、子ども理解が深まった。
- ・情報共有の大切さを再認識できた。
- ・ねらいに対する保育者の関わりや遊びの展開を学び、ねらいに即した環境構成はどうあれば良いのかを、よりクラス全体で考えるようになった。
- ・公開保育を通じて、日頃関わりの少ない他のクラスの子どもの姿を知ることができ、その育ちや発達を共通理解できた。
- ・クラス外の職員や保育を参観した人に、自分にはない視点で見てもらおうことで、新たな発見や課題が見えた。

写 真

6 来年度に向けて

①子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

- ・自ら選び取れる環境や教材の工夫や研究をし、保育士自ら保育を楽しむことを大切に、子どもの発達に沿った楽しい遊びの提供をしながら保育を進めていきたい。
- ・保育所は子どもたちにとって安心できる居場所でありじっくり遊び込める環境構成を考えていく。
- ・自己表現・自己選択できる環境はどうあるべきかを引き続き研究していく。
- ・苦手な食べ物や、自分の食べられる量を保育士に伝える事を今後も大切に、食べる楽しさを味わいながら、様々な食材に無理なく慣れるようにしていく。

②研修体制・保育実践・保育の質に関すること

- ・子どもの発達理解に努め、これからも学び合える時間(研修)や環境を工夫して作り、一人でも多く研修に参加できるよう体制を確保する。また、お互いの保育を見合うことのできる、やってよかったと思える研修を多く実施する。
- ・職員間のコミュニケーションを大切に、伝え合い、共有することを意識することで、子どもや保護者に関することが抜かりなく話し合わせ、保育に活かされるようにする。
- ・日頃から他のクラスが何をしているのか見て学ぼうと関心をもち、いつでも話し合いができる関係の構築をする。
- ・保育の振り返り、記録の見直しをし、勤務時間内での書類作成、教材研究の時間を確保していく。そのための人員配置について担当課と協議していく。
- ・園庭の保育環境の充実や改善に、園全体で取り組む。